



伝えたいこと

校長 遠藤 玲

□学校祭 16日(金)「Line～輝け青春 奏でろ楽笑(がつしょう)！」

真剣・躍動の姿、つながりの証しである作品の数々

今年も新たな挑戦、伝統を受け継ぎながらも、時代に応じた学校祭づくりへ！



おかげさまで、本校は無事学校祭を開催することができました。一昨年は明倫フェスティバルとして、体育祭を兼ねて行いました。昨年は学年演劇と展示制作でした。今年はそれらに加え「学年合唱」への挑戦、明倫中しかない「ONLY 1」の学校祭を創り上げました。

生徒たちは、事前の準備・練習に一生懸命に取り組んでくれました。取組を通して、全校生徒、それぞれ一人一人の持ち味・長所の新発見がたくさんありました。活動の中心的役割を担ったのが実行委員会のメンバーです。当日の進行を含め、よくやってくれました。特に、生徒会執行部の生徒たちは、これが集大成でもあります。コロナでの活動制限等で、やってみたいことへの挑戦は十分ではなかったかもしれません。しかしながら、明倫中の新たな伝統を次に繋げてくれたことに感謝です。後輩たちがその思いを受け継いでくれるはずです。



保護者の皆様には、お子さんの発表場面を見ていただくのは学年合唱のみ、そして各ご家庭1名の観覧となってしまったことにもご理解願います。（各学年50名程度の保護者来校がありました）

学年演劇については、今後の学年懇談会等の機会の中で上映（PTA役員の皆様による撮影・編集）する予定です。また、階段アート等については来校の際にぜひご覧ください。

《当日撮影に協力いただいたPTA役員の皆さん》ありがとうございました！

会長 小田隆行さん（3年）、副会長 川本佳寿子さん（2年）

事務局次長 山田康誠さん（2年） 平野咲子さん（2年）

監査 花美千代さん（1年）、宮澤亜子さん（1年）

□避難訓練・震災学習6日(火)自分の命を守ることを考える時間

大きな地震の発生、大津波警報発令を想定、「自分で判断し行動する」

講師 北海道登別青嶺高等学校 教諭 嶋嶋 裕己 氏

2018年9月6日03時07分、北海道胆振東部地震を私たちは経験しました。隣町の厚真町を震源地とする震度7の大地震では、高校生を含む44名の尊い命が失われ、水や電気などのライフラインは寸断し、多くの建物が崩壊したことなどが思い出されます。



当時、厚真町の中学校に勤務していた工藤明子教諭、阿部雄太教諭は、私たちの想像を超える大変な現実を目にしたのではないでしょうか。私たちは無事に「生きていること・日常の生活が送られていることへの感謝」と「いつ起こるかわからない危機（地震や津波、火事等）に対して、どのように自分の命を守るか」を教訓にしなければいけません。



今年2回目の避難訓練は「大きな地震の発生、大津波警報発令を想定した」校舎3階への避難でした。加えて、生徒に事前の連絡をしない訓練（これまで事前に発生時刻や避難経路・場所を指導して実施していました）に挑戦してみました。万が一の発生時、自分の命を守るためにどのように行動するか？ 55歳の私も自信がありません。だからこそ、やってみる価値はあると考えます。抜き打ちのサイレンや教頭の避難指示に対しても、生徒たちは心配されたケガ等なく各自で判断し、3階への避難を無事完了することができました。

その後、北海道登別青嶺高等学校 教諭 崎峨 裕己 氏を講師に「震災学習」を行いました。3年生は体育館で対面、1・2年生はオンラインでの開催でした。嵯峨氏は大学生の時に東日本大震災の被害に遭い、当時「どうしていいかわからなかった」経験から北海道胆振東部地震では比較的落ち着いて行動できたこと、そして日頃から心がけるべきことなどをユーモアを交えながら熱心にお話していただきました。

□こころの授業(学年道徳) 5日(月) 講師 伊藤 芳正 氏

「命の大切さ」 幸せの重心をどこに置きますか？



「命の大切さ」をテーマに、岐阜県在住の伊藤 芳正氏をお招きし、こころの授業（学年道徳）を行いました。コロナ対策を図りながらの開催ですが、こちらからの直（じか）に生徒に語りかけてほしいという要望、加えて体育館収容人数が300名程度であることから、講師の伊藤氏には無理を言って各学年ごと計3回、お話をさせていただきました。

伊藤氏は文化講演会講師をはじめ、社会福祉士、民生委員・児童委員、里親等現在も幅広くご活躍中で、アフリカ・ケニア・インドの支援活動にも関わっているそうです。このような講演活動を全国120回以上行っている、まさに語りのプロフェッショナルです。約40分という限られた時間でしたが、インドでの体験談や富士山登山、北野武さんの話などとても興味深い盛りだくさんの内容でした。伊藤氏の語り（言葉）で、ちょっとでも生徒たちが自分自身を見つめ、これから的人生を考え、気持ちが前向きに、そして元気になってくれたらと願うばかりです。

このような人を引き付ける語りを校長が一番学ばなければ、と反省しています↓

【印象に残ったフレーズ】※ぜひ、お子さんに聞いてみてください！

- 幸せの重心をどこに置きますか？ 今ですか？ 先ですか？
- 求める幸せ像は「現実とかけ離れているものばかり」、理想とは足下にないもの
- 欲が満たされても、また欲を求めてしまう（ほしいものを手に入れたら、またほしいものが現れる）
- ベトナム出身の禅僧ティクナットハンの言葉
「もしもあなたが、こころ豊かな人だったら～」1枚の紙ですら、つながりがある。
- 腕時計はたくさんの部品でつながり合って成り立っている。その1個が外れただけで時計の機能を失う。直してやれば、また動き始める。人も同じでつながり合って生きている。つながりから外れると、それぞれの運命が変わる。つながりから外れる=孤立
- はずそうな人（孤立しそうな人）がいたら、声をかけてほしい。寄り添ってほしい。
- もしも笑顔のない人がいたら、笑顔を与えてほしい。つながってほしい。
- みんながつながることが時計を動かすように、互いの命を動かす。

これからも、生徒たちがその道のプロフェッショナルを直に感じる機会を創っていきます。

□学校入り口案内看板が新しくなりました

日新児童センター方面からの学校入口案内看板が変わりました。以前のものはだいぶ色あせて歴史を感じさせていました。それが今回は日新小学校の開校50周年記念事業の一環として日新小学校が作成されたものですが、本校グランドフェンスに設置するということで、明倫中学校名も便乗させていただきました。

日新小学校及び関係者の皆さん、ありがとうございました。

コンクールの結果

【吹奏楽部】 北海道吹奏楽コンクール B編成 金賞



【美術部】 第31回 BUNKA ファッションデザイン画コンクール 入選 3-1 ○○ ○○

【その他】 ピティナピアノコンベンション全国大会（東京） 第1位 1-2 ○○ ○○